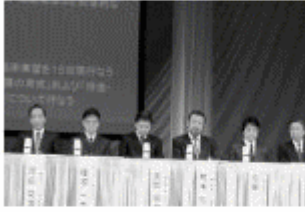


# 第20回日本障害者歯科学会

2003年10月18(土)・19(日) 文京シビックセンター

テーブルセッション

豊島区歯科医師会 高田 靖



—東京都立心身障害者口腔保健センター  
と14地区口腔保健センターとの連携—

①新センターの役割  
・障害のある人たちの治療・予防・保健増進など総合的な  
歯科医療の提供としている

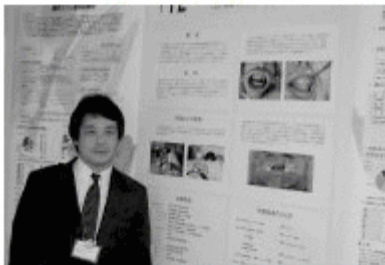
②教育研修  
・産科研修…少人数で講義と臨床実習を15日間行なう  
・専門研修…7名以内の研修医の養成・育成の体制



## 当地区で取り組んでいる医療連携システムについて

—進行性筋ジストロフィ症例を通して—

—当センター利用者の終了後の意識調査について—



# 当地区で取り組んでいる医療連携システムについて — 進行性筋ジストロフィー症例を通じて —

演者 高田 靖<sup>1)</sup>

中村全宏<sup>2)</sup>、北川 尚<sup>1)</sup>、中島陽州<sup>1)</sup>、佐久間洋子<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup>社団法人 東京都豊島区歯科医師会 <sup>2)</sup>東京都立東大和療育センター

<sup>3)</sup>口腔保健センター あぜりあ歯科診療所

## 緒 言

東京都豊島区では平成13年より東京都歯科医療連携推進事業にもとづいて豊島区口腔保健センター「あぜりあ歯科診療所」を中心とした歯科医療連携システムの構築を進めてきた。今回、そのシステムに則して歯科医師会会員、高次医療機関、「あぜりあ歯科診療所」とで連携しながら診療を行った筋ジストロフィー症例を通じて、診療の流れを中心に当地区での連携システム構築への取り組みについて報告する。

## 症 例

患者は38歳、男性、進行性筋ジストロフィーの診断。型は不明。現病歴は5歳の頃より発症。20歳までは自力での歩行も可能であった。現在、四肢・頸部・体幹の運動障害および軽度の嚥下障害が認められる。平成13年に誤嚥性肺炎、舌根沈下となり気管切開・人工呼吸器による呼吸管理となった。現在は気管カニューレ挿入中で自発呼吸下にある。週に1度往診にてカニューレ交換等に対応。

「口の中の管理がうまくできず、虫歯がある。」との主訴にて訪問歯科診療を希望し都立老人医療センターから紹介された。口腔内の状況は上顎左側前歯部および下顎右側臼歯部にカリエスが認められる。歯頸部及び歯間部にプラークの付着が認められる。舌圧により咬合関係は開咬状態であり両側最後臼歯部のみでの接触関係である。

## 処置および経過

内科主治医同席のもと予診を行い、歯科医師会会員による診療の適否および診療方針を協議する判定会議を経て、訪問歯科診療および訪問歯科衛生指導を行った。診療期間中に左側下顎智歯周囲炎を起こし、「あぜりあ歯科診療所」に搬送してレントゲン撮影を行い、東京都立老人医療センターに抜歯を依頼。入院して左側下顎第2、3大臼歯を抜歯。抜歯窩治癒後、訪問

歯科診療にて咬合関係回復のために義歯の作製を行った。その後、義歯の調整等の歯科診療を行い、現在も継続して「あぜりあ歯科診療所」の歯科衛生士による訪問歯科衛生指導を行っている。

## 考 察

東京都豊島区では「あぜりあ歯科診療所」を中心とした訪問歯科診療を行っており、「あぜりあ歯科診療所」の歯科衛生士と豊島区歯科医師会会員とで診療を行い、「あぜりあ歯科診療所」の患者として扱い診療終了後も歯科衛生士による継続的な管理を行っている。(図1)

この方式によれば本症例のように各歯科診療所の状況(歯科衛生士の有無など)に左右されることなく継続した管理が可能となる。また、「あぜりあ歯科診療所」の設備や機材も有効に利用できることになり、高次医療機関との連携もとりやすいものと考えられた。

## 結 論

「あぜりあ歯科診療所」を中心とした歯科医療連携システムは患者管理、設備や人材の有効活用および安全面で有効であることが示唆された。今後はコスト的な面の検討や増加し続ける患者を地域に振り分ける方策の検討をする必要がある。

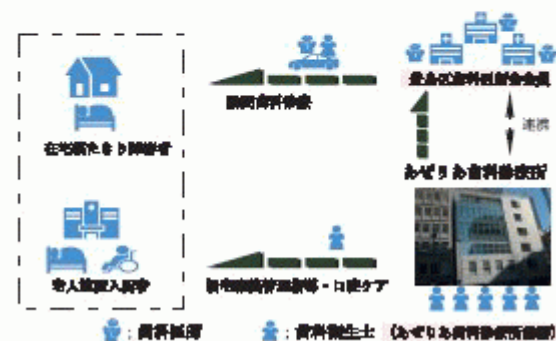


図1